

	発行者の略号	東書	帝国
	書名	新編 新しい社会 地図	中学校社会科地図
（ア） 教科・ 種目に 共通な 観点	①編集の趣旨と工夫	①紙面の拡大や地図帳を深く読み取るヒントとなる問いを随所に掲載し、地図帳を使うことを通して、変化する社会を生き抜く力を育む工夫がされている。	①グローバル化する国際社会で活躍するための基礎教養として、世界・日本の理解を深められるように、持続可能な社会の実現に向けて考察したり、多様な場面で活用したりできる工夫がされている。
	（7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①「アフリカ州の一人あたりの国民総所得」や「アマゾン川流域の開発と熱帯林伐採」など探究課題に沿って学習する際に活用できる資料を掲載し、学習効果が高まるようにしている。 ②SDGsに代表される現代社会の諸課題について扱い、諸課題を捉え、自分自身で解決に取り組む態度を育てられる工夫がされている。 ③地図帳の活用を補助する「Bee's eye」のコーナーでは、問いに取り組むことを通して、社会の課題にどう向き合うべきか、社会の在り方や自分の行動について考えられるようになっている。	①地図の基本的な見方・使い方や、要素の重ね合わせなど、地図活用の基礎となる部分を、丁寧に説明しており、高校での地理総合につながる基礎的な考え方も養えるようになっている。 ②要所に配された問い「地図で発見！」は、「社会的な見方・考え方」を働かせて問いを追究できるようになっており、「思考力、判断力、表現力等」の育成につながる工夫がされている。 ③世界の各州には、自然環境や生活・文化、産業などのイラストを配した鳥瞰図があり、興味・関心を高めて学習に取り組める工夫がされている。
	（4）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	○「Bee's eye」で社会の課題にどう取り組むべきかを問う質問を設け、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしている。	○環境問題や脱炭素への動きなどの資料をはじめ、世界と日本の諸課題について深く考察できる主題図を多数設けて、平等な社会の実現や社会参画への意識を高められる工夫がされている。
	（7）内容と構成 ○中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ○生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①地図帳に答えが載っていない問いを多く掲載し、自ら調べたり考えたりする活動を通して主体的・対話的な学習につながる工夫がされている。 ②社会科の各分野との関連については、各ページに各分野との関連を示す学習内容が記載されている。 ③地図から読み取る学習活動や、因果関係を考える問いを多く掲載することで言語能力の育成につながる工夫がされている。 ④伝統工芸品や文化的特徴がある街並みなど、国の伝統や文化についての資料を掲載している。 ⑤地形を大まかに区分する発問や都市間の直線距離を測る発問が掲載されている。 ⑥世界の国や首都を示した世界全図や、日本の都道府県と県庁所在地を示した日本全図を掲載することで小学校での学習を振り返られるようにしている。 ⑦QRコンテンツを読み取ることでデジタルマップの確認や地理的技能的練習を促すなど、学びを深められるようになっている。 ⑧凹凸や飾りをなくした「フラットデザイン」の採用や、ユニバーサルデザインフォントを使用することで、生徒が使いやすい工夫がされている。 ○通常の地図に加え、複数の図を比較・検討できる構成となっており、生徒の理解が深まる工夫がされている。	①問いコーナー「地図で発見！」では、生徒自らが世界の諸課題について考え、よりよいあり方について検討したり、他の生徒と話し合ったり、協働して取り組めるような課題や作業を提示している。 ②社会科の学習のみならず、修学旅行や校外学習でも活用できる資料や都市図が多数掲載されている。 ③問いコーナー「地図で発見！」は、他の生徒と意見交換をしたり、自分の考えを資料に基づいて表現したりする活動を通して、言語能力の育成を期待できる。 ④各地に根付いた伝統的工芸品や地場産業の絵記号、日本国内の世界文化遺産を記載し、日本の伝統と文化への関心が高まる内容を地図中に盛り込んでいる。 ⑤同じ縮尺の主題図を並べ、地図資料から変化や関係性などを追究する体験ができるようになっている。 ⑥生徒が主体的に学習できるように、凡例、方位、地図記号、色、縮尺など、小学校で学習した地図の約束ごとを振り返られるようになっている。 ⑦学習用端末の利活用に対応して、社会科の学習を地図帳ならではの観点で補完するアニメーションやクイズ、発展的なウェブマップ（ジオグラフ）など、さまざまなコンテンツを活用できるようになっている。 ⑧地図帳全体にわたって読みやすいユニバーサルデザイン(UD)フォントが使用されている。 ○資料は地域の特色が偏らずに理解できるよう、多角的に題材が選定されている。また、通常の地図に加え、視覚的に捉えやすい鳥瞰図を多用することで、内容が焦点化され、理解しやすい表現になっている。
（1）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①概ね適切である。 ②視覚的効果が高いA4判を用い、写真や文字の鮮明さに留意し、見やすい紙面構成にしている。 ③適切な大きさの文字や書体を使用し、読みやすい工夫がされている。	①概ね適切である。 ②開いているページの地域が、世界・日本の中でどのあたりに位置するかが一目でわかるように、地図ページには位置図が掲載されている。 ③地図中の地名の漢字には、すべてふりがなが付され、正しく読めるように配慮されている。	
（イ） 教科・ 種目別の 観点	①一般図・拡大図・主題図・索引などは適切に配列されているか。	①世界の各州・日本の各地方には、地域の概観に役立つ、自然・産業・人口などの主題図を共有して掲載している。世界の一般図では、国名や主要な都市名、自然地名などの基本的な情報を取り上げている。日本の一般図では、全ての市町村名や主要な自然地名を掲載し、索引では全国の市町村名を探せるようにしている。	①世界の州は、「一般図」→「鳥瞰図（ながめてみよう）」→「資料図」という配列、日本の地方は、「一般図（地方別地図）」→「一般図（拡大図）」→「資料図」という配列で分かりやすく構成されている。
	②統計、各種の資料は、最新のデータを使うなど信頼性があり、生徒の発達段階に即したものが適切に取り上げられているか。	②授業で扱いやすいように地図や最新のデータを用いた資料などが掲載されている。また、一般図の地名などには読みやすいようにすべてふりがなが付けられている。	②統計、各種の資料は、最新のデータに更新されており、中学生が学習する適切なレベルの資料が選定されている。また、統計資料は巻末にまとめて掲載され、地方別、項目別に色分けがなされているため、数値的に地域の特徴や違いを捉え説明しやすいよう配慮されており、教科書の内容を生徒が主体的に深めていく際に活用しやすくなっている。
	③生徒が自主的に学習に取り組み、情報を読み取る技能及びまとめる技能を身に付けるための工夫や配慮がなされているか。	③巻頭では地図帳の詳しい活用方法が掲載されており、一般図や主題図の読み取り方を通して、情報を読み取る技能が身につけられるよう工夫されている。また各分野との関連やSDGsとの関連についてマークで表示するなど、学習内容を深められる構成となっている。	③地図帳の構成や、方位、地図記号、縮尺、索引の使い方など、地図帳の基本的な見方・使い方がわかりやすく解説された「この地図帳の凡例」「この地図帳の使い方」が巻頭で4ページにわたって設けられている。また、実際の地形図を取り上げ、作業を通して地形図の見方が身に付けられるコーナーが設けられている。